



### 1. 播種までの作業

#### (1) 種子選別

- 充実不良な種籾は、出芽の不揃い、病気等育苗期間中の障害を発生させる原因となります。
- 塩水選により、充実不良籾を除去しましょう。**塩水選後の籾は十分水洗いし、塩分を取り除いてください。**

塩水選における比重と資材の使用量

籾の種類	比重	使用量 (kg) / 水 10L	
		食塩	硫酸
うるち (粳)	1.13	2.0	2.9
もち (糯)	1.08	1.2	1.6

#### (2) 種子消毒

- 種子選別後にそのまま殺虫、殺菌剤の溶液に24時間浸漬します。ばか苗病など毎年同じ病気が発生する場合は、使用する薬剤または消毒方法を見直しましょう。
- 温湯種子消毒を行う場合は、発芽率や防除効果を低下させないように、**①温度設定 (60℃) ②処理時間 (10分) ③温湯に浸漬する籾の量 ④消毒後の冷水処理を厳守してください** (手順については温湯種子処理機の取扱説明書をよく確認してください)。

#### (3) 浸種・催芽

1. 水槽内に入れる比率は「種籾1：水2以上」でゆったりと
2. 種籾は網袋一杯には詰め込まない、袋の5～7割が目安
3. 浸種に使う水は、水道水等の清潔なものを使用
4. 酸素補給のため、水は毎日 (または1日おきに) 交換  
※掛け流しは種子消毒効果が無くなるので厳禁です！
5. 浸種期間は、種子消毒からの積算温度 (=水温×日数) 100℃が目安
6. 浸種は直射日光を避け、**水温は15℃前後 (10℃以下だと出芽不良に)**
7. 浸種途中で種籾の状態を確認し、鳩胸状態 (写真1) になったら催芽終了



### 2. 育苗期間の温度管理

- 育苗期間中の温度管理が、苗質に大きく影響します。苗半作といわれるように、苗の生育期に応じた適温を維持し、丈夫な苗を育てましょう。
- 播種作業時に、床土に十分灌水することも重要です。

#### 苗の生育期に応じた温度管理の要点

- 1) 出芽期 (緑化開始まで、幼芽長=出芽後の苗長が0.5～1cmの頃)

**出芽期の適温は30～32℃**

- 2) 緑化期 (苗を光に当て、葉緑素を形成させる期間、苗長3～4cmの頃)

**緑化期の適温は22～25℃**

- 3) 硬化期 (緑化後、外の環境に適応させる期間)

**硬化期は苗を外気にさらし、右図の苗齢・苗長まで育成**

☞ 緑化期から硬化期は、夜間の温度が10℃以下となりそうな場合は保温対策を行いましょう。

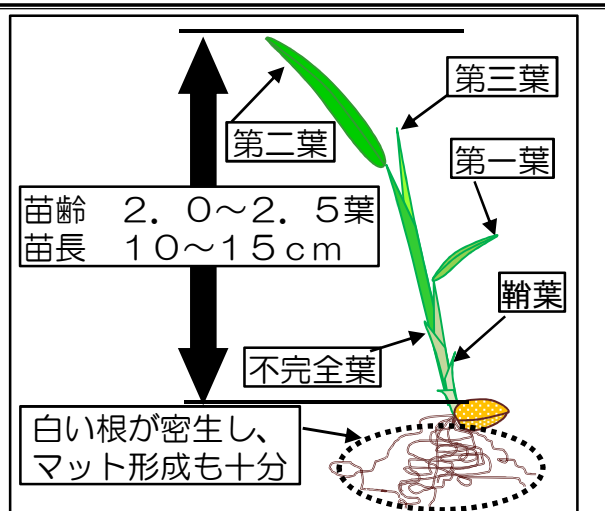


図 移植適期の稚苗